

本学学生の社会体育に対する意識調査

和田 春 恵
小 田 和 美
奥 野 知 加

はじめに

学生が将来の進路についてどのように考えているか、どんな希望を持っているか、そしてそれらを授業とどう結びつけて考えているのか、ということは教える側にとって気になるテーマである。

一般的な就職の際、本学で学んだ専門が有利に働くことは少ないのではないか。この専門性は、「学校体育」、あるいは「社会体育」の指導者の立場に立ったときにこそ活かしてくるものではないか。「学校体育」に携わる機会が減少してきている反面、「社会体育」に携わる機会は、個人の余暇活動の多様化、企業内の健康管理における企業内体育の重要性の見直し、地域社会における社会体育の活性化、また行政面での社会教育や生涯教育重視などに伴って、この十数年の間にますます拡がってきている。

こういった現状を、学生はどこまで把握し、どう認識し、学生時代の自分の活動や自分の将来とどう結びつけて考えているのか、等の疑問が生じた。学生との日頃の会話や進路指導を通じて、個々の考え方に接する機会はあるが、学生の全体像となると、つかみにくく、その資料も乏しい。

それを探るため、本学学生を対象に質問紙法による調査を行い、その結果をいろいろな角度から考察し、今後の我々の活動の基本資料としようというのが本稿のねらいである。

研究方法

(1) 調査対象

1994年度、本学体育学部

	調査数	在籍数	調査率
1年	302名	353名	85.5%
2年	268名	351名	76.4%
3年	171名	394名	43.4%
本学保健体育学科			
1年	244名	284名	85.9%
	166名	282名	58.9%
計	1151名	1664名	69.2%

(2) 調査期間

1994年12月中旬

(3) 調査方法

学部1年、2年、保体1年は、上記の期間のダンスの授業時間内に質問紙を配布、回収した。学部3年は事前に配布し授業時間内に回収、保体2年は授業時間に配布し後日回収した。

質問紙の内容は、資料1のとおりである。

(4) 集計方法

Q 5, Q 8, Q 9, Q11, Q18, は手作業で、その他の項目はコンピュータに入力して、各学年の所属クラブ別に集計した。その後、本学全体、体育学部対保健体育学科、学部・保体の各学年ごと、クラブ所属者対無所属者、クラブ系列別に集計し、それぞれに対し考察した。

クラブ系列は、所属する学内外のクラブ・同好会・サークルを、その活動の専門性から以下の7つの系列に分けた。

球技系 : バレーボール, ハンドボール, ソフトボール, バスケットボール, テニス, バドミントン, サッカー, 卓球, ラクロス, ラケットボール, アイスホッケー

社会体育に関するアンケート調査

大学 保体	年	才	所属クラブ・同好会・サークル 学内 学外
----------	---	---	--

- **Q 1**** 社会体育という言葉聞いたことがありますか？
- **Q 2**** 社会体育とは、どのようなものだと思いますか。次の中から、社会体育だと思ふものに、○をつけてください。(いくつでも可)
- 1) 学校におけるクラブ活動(課外活動も含む)
 - 2) 学校における放課後(休日も含む)の一般開放(体育館・グラウンド・プール等)を利用して行う活動
 - 3) 公共の施設を利用して、市町村区が主催して行うもの
 - 4) 民間の施設を利用して、市町村区が主催して行うもの
 - 5) 企業が主催し、公共の施設を利用して行うもの
 - 6) 企業が主催し、自らの施設を利用して行うもの
 - 7) 個人が主催し、フィットネス・クラブ・ジム・スイミング等)を利用して行うもの(サークル)
 - 8) 個人が主催し、個人の施設を利用して行うもの
 - 9) その他()
- **Q 3**** あなたに、上記の1)~8)の活動の指導の依頼がきたとします。あなたならどうしますか？
- A. 喜んで指導にあたる。
- B. 一応引き受けて、やってみる。
- C. あまり気が進まないの、断わるかどうか迷う。
- D. 報酬があるなら考えるが、ボランティアならやらない。
- E. 断わる。
- F. その他(具体的に)
- **Q 4**** 社会体育の種目として実際行われていると思うものに○をつけてください。
- | | | |
|-------------|---------------|----------------|
| 1. エアロビクス | 2. バレエ | 3. モダンダンス |
| 4. ジェスダンス | 5. ディスコダンス | 6. フォークダンス |
| 7. 社交ダンス | 8. タップダンス | 9. スパニッシュダンス |
| 10. サインドダンス | 11. フラダンス | 12. 健康体操 |
| 13. 大規模体操 | 14. 気功 | 15. 新体操 |
| 16. 器械体操 | 17. 体操 | 18. 日本舞踊 |
| 19. 民謡 | 20. 盆踊り | 21. バトントウリング |
| 22. チアリーダー | 23. バレーボール | 24. バスケットボール |
| 25. ハンドボール | 26. ソフトボール | 27. 野球 |
| 28. 卓球 | 29. テニス | 30. サッカー |
| 31. ラグビー | 32. ラクロス | 33. ゴルフ |
| 34. ボーリング | 35. バドミントン | 36. スカッシュ |
| 37. 水泳 | 38. アкваダイビング | 39. スキューバダイビング |
| 40. スキー | 41. スケート | 42. スノーボード |
| 43. 水の上スキー | 44. ボクシング | 45. レスリング |
| 46. 柔道 | 47. 剣道 | 48. 少林寺拳法 |
| 49. 弓道 | 50. アーチェリー | 51. 射撃 |
| 52. 乗馬 | 53. その他 | |
- **Q 6**** 社会体育の指導の経験がありますか？ { ある ・ ない }
- ある人に聞きます。いつ頃？
- どんな種目で？
- **Q 7**** あなたは社会体育に受講者として参加したことがありますか？ { ある ・ ない }
- ある人に聞きます。 <<1回目>>
- どんな種目で？
- **Q 8**** 今後、何か受講してみたい種目はありますか(あるだけいくつでも)
-

****Q10**** あなたは今、何か資格を持っていますか？
 { 持っている . 取りつつある . 持っていない }
 持っている人に聞きます。何を持っていますか？

取りつつある人に聞きます。何を取ろうとしていますか？

****Q11**** 今後、取得のチャンスがあれば、どんな資格を取りたいですか？
 希望順に、あるだけ書いてください。

1.	2.
3.	4.
5.	6.
7.	8.
9.	その他

****Q12**** あなたは将来、社会体育の指導員を志望しますか？
 { する . しない }

志望する人に聞きます。指導してみたいですか？ (いくつでも可)
 該当する年齢層に○をしてください。(小学生) 生徒 (中・高生)
 1. 幼児 2. 児童 (小学生) 3. 生徒 (中・高生)
 4. 小学生 5. 20代 女性 6. 20代 男性
 7. 30代 女性 8. 30代 男性 9. 40代 女性
 10. 40代 男性 11. 50代 女性
 12. 50代 男性
 13. 60代 女性 14. 60代 男性
 15. 70代 女性
 16. 70代 男性 17. 80代 女性
 18. 80代 男性

何を指導したいですか？
 その項目に○をつけ、種目を書いてください。

- 1. ダンス・体操
- 2. 球技
- 3. サマースポーツ
- 4. ウィンタースポーツ
- 5. その他

****Q13**** 『社会体育指導者の知識・技能審査事業』(文部大臣認定)というものを
 知っていましたか？

****Q14**** 上の事業に基づき、『日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会』という
 ものがあることを知っていましたか？

****Q15**** 上の講習会は【共通科目の講習及び試験・専門科目の講習及び試験】から成っ
 ています。

体育学科の学生は、本大学の所定の講座の単位を取得し申請すれば、
 共通科目の講習及び試験が免除されることを知られていますか？
 また『共通科目講習・試験終了証明書』を知られていますか？

****Q16**** 『共通科目講習・試験終了証明書』を取得しておき、卒業後それぞれの種目の
 連盟の専門講習を受け、試験に合格すれば、【体育協会公認スポーツ指導者】
 の認定を受けることを知っていましたか？

****Q17**** あなたは『共通科目講習・試験終了証明書』を取得しようと思いませんか？
 { 思う . 思わない }

思わない人に聞きます。
 何か理由がありますか？ ある場合は、その理由も書いてください。

****Q18**** あなたは将来、どのような方向に進みたいですか？

****Q19**** 社会体育について、望むこと・疑問点等、何でもいいから書いてください。

- 体操系 : 器械体操, 新体操, トランポリン, チアリーディング
- ダンス系 : ダンス, 創作舞踊, フィギアスケート
- 陸上系 : 陸上, スピードスケート, トライアスロン
- 格技系 : 剣道, 合気道, フェンシング
- 資格目的系 : AC, ライフセービング
- 野外系 : スキー, 水泳, アクアダイビング, カヌー, その他
- 無所属

結果と考察

(1) 社会体育の概念(質問紙 Q 1~Q 4)について

- ① 殆どの学生(99.3%)が, 社会体育という言葉を知ったことがある。これは, 学部, 保体, 学年別, クラブ別のいずれのグループにも共通している(98.8~100%)。
- ② 3) 公共施設を利用し市町村区が主催するものを社会体育ととらえる者が一番多い。次いで, 4) 民間施設を利用し市町村区が主催するもの, 5) 公共施設を利用し企業が主催するもの, と続く。7) サークル活動や8) 個人主催の教室等は社会体育と認識していない者が多い。これは, 学部, 保体, クラブ別のいずれのグループにも共通する全体的傾向である。

学部・保体とも, 学年別に見ていくと, 年次が上がるにつれ, 7) や8) も社会体育ととらえられるようになるが, 率としてはまだ低い。クラブ所属者と無所属者の対比では, 学部生の場合, 無所属の方が3) 4) 5) 6) を社会体育と認識している者の率が高い(表1)。

表1 社会体育とはどのようなものか

	大学全体 1151名	学部 741名	保体 410名	所属 220名	無所属 231名
1) 学校のクラブ活動	1.7%	2.0%	1.2%	1.8%	1.3%
2) 放課後の施設・開放	32.8%	33.9%	31.0%	33.5%	30.3%
3) 公共施設・市町村区主催	88.7%	90.0%	86.3%	88.7%	88.7%
4) 民間施設・市町村区主催	70.5%	73.5%	64.9%	69.8%	73.2%
5) 公共施設・企業主催	57.1%	59.1%	53.4%	56.3%	60.2%
6) 公共施設・個人主催	49.8%	49.3%	50.7%	49.3%	51.5%
7) 公共施設・個人主催	23.4%	24.0%	22.2%	22.8%	25.5%
8) 個人主催	9.7%	10.1%	9.0%	10.1%	8.2%
9) その他	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%	0.4%

- ③ 3) ~6) を社会体育としてとらえている者は, 指導の依頼があった場合, 仕事として引き受け

ることが多い。社会体育ととらえてない1) 2) 7) 8) については, 際だった差が見られる。「喜んで指導にあたる」と「一応引き受けて, やってみる」を積極的, 「あまり気が進まないので, 断るかどうか迷う」と「報酬があるなら考えるがボランティアならやらない」を消極的とする, 1) 2) の指導については積極的だが, 7) 8) の指導には逆に, 消極的である。しかし, 断わるという者はどれも少ない。どのような形であれ, 体育指導に前向きに取り組む姿勢がうかがえる(表2)。

表2 体育指導をしたいかどうか

	大学全体 1151名	指導に積極的	指導に消極的	断る
1) 学校のクラブ活動	515	44.7%	70	6.1%
2) 放課後の施設・開放	623	54.1%	98	8.5%
3) 公共施設・市町村区主催	829	72.0%	169	14.7%
4) 民間施設・市町村区主催	712	61.9%	172	14.9%
5) 公共施設・企業主催	611	53.1%	216	18.8%
6) 公共施設・個人主催	625	54.3%	205	17.8%
7) 公共施設・個人主催	412	35.8%	200	17.4%
8) 個人主催	295	25.6%	235	20.4%

学部・保体を比較してみると, 学部学生の方が回答率が高く, 自分なりに意識を持っていることがうかがえる。特に, 1) 2) の学校関連の指導に対しては, 学部の学生の方が保体学生より10%以上前向きにとらえているのが印象的である。クラブ所属者と無所属者の対比では, クラブ所属者の方が全体的に指導することに前向きである。所属クラブの系列別に見てみると, 資格目的系に所属しているものが, 際だって指導に意欲的であるのが目立つ(表3)。

- ④ どの考察対象グループも実際に行われている社会体育として, 上位から, エアロビクス・健康体操・社交ダンスの順にあげている。4位~7位は順位の入れ替わりはあるが, ジャズダンス, 水泳, バレーボール, テニスが並ぶ。この質問に対する回答率を見てみると, 学部対保体では学部の方が, クラブ所属者対無所属者では所属者の方が高い。これが, 興味・関心の違いによるものか, アンケートに対する協力度の違いによるものかは確定できないが, 他の設問に対しては必ずしもそうとは言えないことから, 実社会の現状に対する認識の違いによるのではないかと考えられる。学部3年生だけは, 所属者よ

表3 体育指導をしたいかどうか

	合計 1151名	大学 741名	保体 410名	所属 920名	無所属 231名
** 指導に積極的 **					
1) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	515 44.7 %	358 48.3 %	157 38.3 %	430 46.7 %	85 36.8 %
2) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	623 54.1 %	431 58.2 %	192 46.8 %	514 55.9 %	109 47.2 %
3) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	829 72.0 %	531 71.7 %	298 72.7 %	661 71.8 %	168 72.7 %
4) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	712 61.9 %	465 62.8 %	247 60.2 %	570 62.0 %	142 61.5 %
5) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	611 53.1 %	413 55.7 %	198 48.3 %	504 54.8 %	107 46.3 %
6) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	625 54.3 %	401 54.1 %	224 54.6 %	512 55.7 %	113 48.9 %
7) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	412 35.8 %	280 37.8 %	132 32.2 %	343 37.3 %	69 29.9 %
8) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	295 25.6 %	204 27.5 %	91 22.2 %	249 27.1 %	46 19.9 %
** 指導に消極的 **					
1) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	70 6.1 %	51 6.9 %	19 4.6 %	57 6.2 %	13 5.6 %
2) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	98 8.5 %	68 9.2 %	30 7.3 %	82 8.9 %	16 6.9 %
3) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	169 14.7 %	119 16.1 %	50 12.2 %	133 14.5 %	36 15.6 %
4) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	172 14.9 %	120 16.2 %	52 12.7 %	132 14.3 %	40 17.3 %
5) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	216 18.8 %	135 18.2 %	81 19.8 %	158 17.2 %	58 25.1 %
6) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	205 17.8 %	139 18.8 %	66 16.1 %	162 17.6 %	43 18.6 %
7) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	200 17.4 %	145 19.6 %	55 13.4 %	164 17.8 %	36 15.6 %
8) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	235 20.4 %	175 23.6 %	60 14.6 %	190 20.7 %	45 19.5 %
** 断る **					
1) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	28 2.4 %	19 2.6 %	9 2.2 %	17 1.8 %	11 4.8 %
2) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	30 2.6 %	20 2.7 %	10 2.4 %	25 2.7 %	5 2.2 %
3) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	37 3.2 %	20 2.7 %	17 4.1 %	32 3.5 %	5 2.2 %
4) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	28 2.4 %	18 2.4 %	10 2.4 %	27 2.9 %	1 0.4 %
5) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	27 2.3 %	19 2.6 %	8 2.0 %	24 2.6 %	3 1.3 %
6) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	29 2.5 %	19 2.6 %	10 2.4 %	24 2.6 %	5 2.2 %
7) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	56 4.9 %	36 4.9 %	20 4.9 %	46 5.0 %	10 4.3 %
8) 学校の後の施設・公共施設・公民館・自分・公共個人	70 6.1 %	44 5.9 %	26 6.3 %	54 5.9 %	16 6.9 %

表4 実際にはどのような社会体育があるか

	合計 1151名	大学 741名	保体 410名	所属 920名	無所属 231名	大3所属148名	大3無所属23名
エアロビクス	1024 89.0 %	669 90.3 %	355 86.6 %	828 90.0 %	196 84.8 %	137 92.6 %	22 95.7 %
ジャズダンス	715 62.1 %	491 66.3 %	224 54.6 %	586 63.7 %	129 55.8 %	101 68.2 %	17 73.9 %
社交ダンス	778 67.6 %	517 69.8 %	261 63.7 %	641 69.7 %	137 59.3 %	114 77.0 %	17 73.9 %
健康体操	838 72.8 %	567 76.5 %	271 66.1 %	672 73.0 %	166 71.9 %	119 80.4 %	17 73.9 %
バレーボール	701 60.9 %	453 61.1 %	248 60.5 %	577 62.7 %	124 53.7 %	100 67.6 %	19 82.6 %
テニス	640 55.6 %	418 56.4 %	222 54.1 %	514 55.9 %	126 54.5 %	97 65.5 %	20 87.0 %
水泳	710 61.7 %	476 64.2 %	234 57.1 %	581 63.2 %	129 55.8 %	96 64.9 %	18 78.3 %

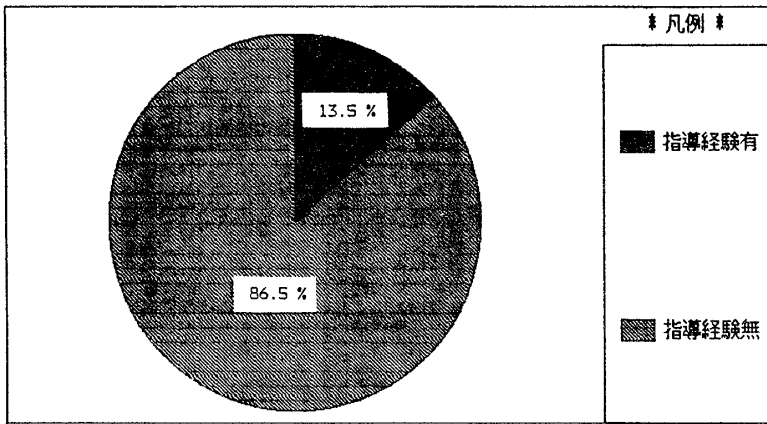
り無所属の方が、かえって回答率が高い傾向が見られた(表4)。

(2) 社会体育との個人的関わり(Q6~Q10)について

① 「社会体育指導の経験がありますか(Q6)」
 については、全体的には13.5%と低い率であった(グラフ1)。また学部生と保体生を比較してみると、学部生の方が保体生より2倍以上の率で経験を持つと回答していた(学部生17.1%、保体生6.8%)。指導内容の問いでの全体の平均値は、専門分野が53.5%、専門外が46.5%と、わずかではあるが専門分野が多いという結果であった。しかし、保体生と学部3年は専門外が専門を上回る結果となっている。学年別に見る指導経験者は、学部(1年10.9%、2年22.0%)と、保体(1年4.9%、2年9.6%)で、そ

れぞれ2年の方が1年よりも2倍近く増加していた。しかし学部3年(20.5%)の指導経験者は2年と比べ、殆ど増減がなかった。これは、3年になって新たに指導を経験する者が殆どないからではなかろうか。次に、指導経験の有無をクラブ系列別に見てみると、最高値が資格目的系で32.0%、最低が格技系の2.2%となっていた。専門分野を指導したものの率が高いのは球技系、体操系、野外系で、専門外が多いものはダンス系、陸上系、格技系、資格目的系であった(表5)。

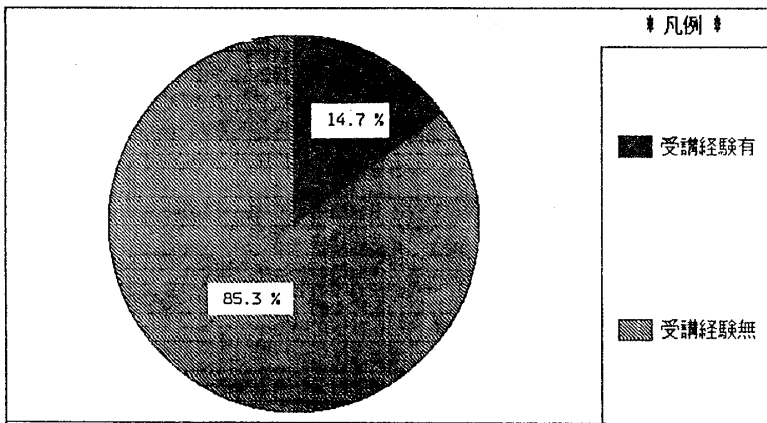
② 「社会体育を受講したことがありますか(Q7)」
 について、社会体育の受講経験者は全体的には14.7%であり(グラフ2)、そのうちの80%は専門外の種目を受講しているという結果であった。学部、保体ともにその傾向が見られたが、特に



グラフ1 社会体育指導経験の有無

表5 社会体育指導経験の内容 (専門分野か専門外か)

	専門分野	専門外
全体	85名 53.5%	74名 46.5%
大学1年	21 65.6%	11 34.4%
大学2年	37 59.7%	25 40.3%
大学3年	16 44.4%	20 55.6%
保体1年	5 38.5%	8 61.5%
保体2年	6 37.5%	10 62.5%
クラブ所属	85 66.9%	42 33.1%
球技系	44 72.1%	17 27.9%
体操系	18 81.8%	4 18.2%
ダンス系	4 40.0%	6 60.0%
陸上系	2	5
野外交渉系	13 72.2%	5 27.8%
格闘技系	0	1
資格目的	4	5
無所属者	0 0.0%	31 100.0%



グラフ2 社会体育受講経験の有無

表6 社会体育受講経験の内容 (専門分野か専門外か)

	専門分野	専門外
全体	38名 20.1%	151名 79.9%
大学1年	12 27.9%	31 72.1%
大学2年	13 26.0%	37 74.0%
大学3年	4 11.8%	30 88.2%
保体1年	7 25.0%	21 75.0%
保体2年	2 5.9%	32 94.1%
クラブ所属	38 24.8%	115 75.2%
球技系	13 18.3%	58 81.7%
体操系	9 39.1%	14 60.9%
ダンス系	4 40.0%	6 60.0%
陸上系	3 16.7%	15 83.3%
野外交渉系	7 43.8%	9 56.3%
格闘技系	0	6
資格目的	2	7
無所属者	0 0.0%	38 100.0%

保体2年生だけは94.1%と高率を示していた。クラブ所属者でも、専門と専門外の割合は全体と同じ傾向(専門分野24.8%, 専門外75.2%)を示しており、ここでも専門外の受講がどのクラブ系列においても50%以上という高い数値であった(表6)。

③ 「受講したい種目は何ですか(Q8)」については、表7でも明らかなようにエアロビクスの希望総数が243と群を抜いて多く、2位テニス(87)に対して格段の差が認められる。上位4種目の

エアロビクス、テニス、スキー、水泳はどの学年にも共通して上位にみられる種目である。

④ 「現在何か資格を持っていますか(Q10)」について、全体で「持っている」若しくは「取りつつある」と回答したものの合計は20%、現在持っていないものは70%であった。10%は無回答である(グラフ3)。学部、保体及び各学年別にみても、クラブ所属、無所属別にみても全体との傾向の違いはみられず17%~20%が取得、若しくは取得中と答えている。クラブ系列別で

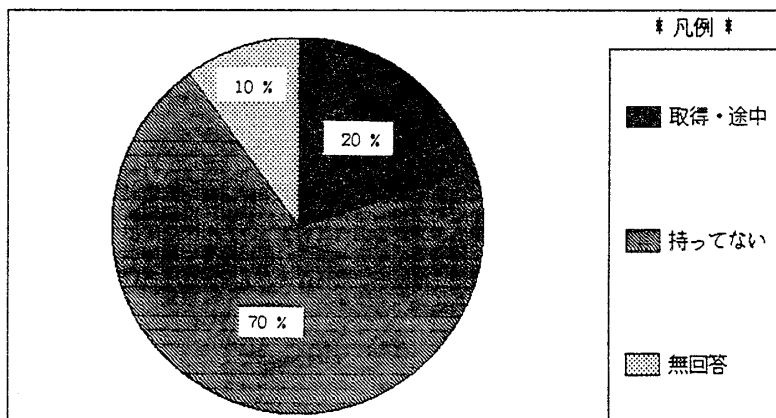
表7 受講してみたい種目上位6種目

	合計 1151名	大1年 302名	大2年 268名	大3年 171名	保1年 244名	保2年 166名
エアロビクス	243 21.1%	61 20.2%	55 20.5%	40 23.4%	40 16.4%	47 28.3%
テニス	87 7.6%	23 7.6%	19 7.1%	15 8.8%	11 4.5%	19 11.4%
スキー	78 6.8%	30 9.9%	14 5.2%	7 4.1%	12 4.9%	15 9.0%
水泳	67 5.8%	22 7.3%	16 6.0%	13 7.6%	8 3.3%	8 4.8%
スキューバダイビング	52 4.5%	19 6.3%	10 3.7%	10 5.8%	5 2.0%	8 4.8%
ジャズダンス	40 3.5%	10 3.3%	11 4.1%	10 5.8%	6 2.5%	3 1.8%

表8 取得及び取得途中の資格内容の内訳

全資格数	205名
球技系資格	43
スキー関係資格	27
ダイビング関係資格	22
野外系資格	20
体操系資格	18
日本赤十字救急員資格	18
水泳関係資格	15
その他	11
その他	31

注) 各資格には、その分野における技術・審判・指導の資格が含まれる。



グラフ3 資格所有の有無

は資格目的系(68%)が最も多く、次いで格技系(26.6%)、体操系(23.9%)の順となり、陸上系(10.3%)が最下位であった。これらを一人当たりの取得率でみるとと野外系の21人中34取得(1.6倍)が最も高く、次いで体操系の27人中26取得と球技系の80人中76取得(いずれも約1.0倍)となっており、ダンス系は10人中4取得(0.4倍)、陸上系は12人中3取得(0.3倍)と低い数値であった。学年全体の資格取得の内訳については表8のとおりで、球技系の技術、審判の資格取得が最も多く、次いでスキー、ダイビング関係となっている。

けて考えなかったか、あるいは質問の意図が理解されなかった可能性が原因として考えられる。なお「医療関係」とは、理学療法士、マッサージ士、針・灸など、「日赤救助員」とは日本赤十字社の救助法、蘇生法、および水上安全法の救助員であり、また「その他」はタイプやワープロ、英検、自動車免許など体育系以外の資格である(表9,10)。

(3) 自分の将来の方向(Q11~Q12)について

① 資格取得に対する希望(Q11)については、体育関係に分類される資格取得をあげた答えが、延べ1265件(複数回答を含む)中939と、圧倒的となった。そのトップ3がエアロビクス(155)、スキー(153)、ダイビング関係(136)で、それだけで体育関係の資格取得希望全体の47.3%を占める。この傾向は学部と保体、学年別、クラブ別で比べても大きな違いはない。唯一例外は体操系で、自分が専門としている体操関係の資格希望が一番多い。また教職課程をとる学生が多いにもかかわらず教員免許取得希望が非常に低くなったが、これは教員免許取得に関心が薄いというよりも、教職課程と教員免許を結びつ

表9 資格取得希望

	全体 1265名	クラブ所属 926名	無所属 269名	学部3年 164名
体育指導員	939 74.2%	728 73.1%	211 78.4%	132 80.5%
教員	77 6.1%	66 6.6%	11 4.1%	4 2.4%
医療関係	52 4.1%	45 4.5%	7 2.6%	11 6.7%
社会福祉	10 0.8%	10 1.0%	0 0.0%	1 0.6%
日赤救助員	71 5.6%	61 6.1%	10 3.7%	8 4.9%
その他	116 9.2%	86 8.6%	30 11.2%	8 4.9%

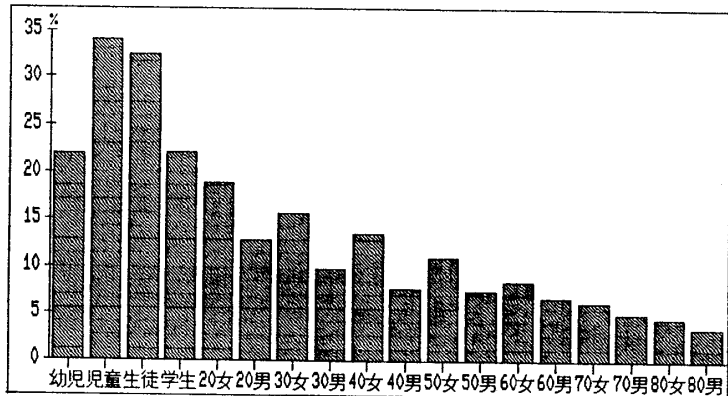
注) その他・・・タイプライター・ワープロ・英検等

表10 体育関係の資格取得希望の内訳

	全体 939名	クラブ所属 729名	無所属 210名	体操競技部 73名
☆エアロビクス	155	125	30	16
☆スキー関係	153	116	37	8
☆ダイビング関係	136	101	35	9
☆トレーナー	79	65	14	3
☆社会体育指導員	70	56	14	1
☆健康運動実践指導士	19	14	5	0
☆球技系	68	52	16	1
☆体操系	30	29	1	26
☆ダンス系	12	11	1	2
☆陸上系	14	12	2	0
☆格技系	4	2	2	0
☆水泳関係	71	56	15	0
☆小型船舶・レクリエーション	66	44	22	4
☆ライフセービング	32	26	6	2
☆スポーツプロフェッショナル	30	20	10	1

注) ☆には、技能・指導員および審判員等を含む

② 将来の社会体育指導員の希望(Q12)について学生全体でみると、社会体育の指導員を希望しているのは53%にのぼる。指導をしてみたい対象としてあげられたのは、児童(小学生)、生徒(中・高校生)が多く、次いで大学生、幼児の順となっている。また大人の場合、対象が高齢になるにしたがって、希望する数は減っている。指導種目については、球技指導を希望する数が5割を超えている。学部と保体を比較してみると、指導員を希望する割合は保体の方が57%と学部よりも若干高い。対象、種目については、両者の差はそれほどない。ところが各学年ごとに比較すると、差があるのに気づく。「指導員を希望するか」の質問では、学部では1年が59.3%、2年が53.7%希望すると答えているのに対し、3年は希望しない学生が62.6%と逆転する。保体でも1年が6割強希望しているのに対し、2年は5割弱となっており、学部、保体ともに学年が上がるにしたがって希望する割合は下がる傾向がある。次にクラブ系列ごとの特徴をみると、指導員を希望するがダンス系、球技系、体操系および資格目的系が5割を超え、特にダンス系のそれは7割と高率である。これに対し、陸上系、格技系では希望しない学生の方が多い。また、野外系に関しては、4割の学生が希望すると答えているものの、無回答も3割と著しく高い。指導の対象としては、ダンス系以外は児童・生徒に偏っており、高齢者の指導を希望する数が極めて少ないが、ダンス系の場合年齢に基づく偏りは少ない。当然のことながら、種目



グラフ4 指導対象の希望

はそれぞれの専門を反映したものになっている(グラフ4)。

③ 進路志望(Q18)について、全体では体育指導員と教員の2つで、延べ1096件中921と8割を超え、大きく抜きんでいる。これを学部、保体で比べてみると、保体の場合には体育指導員の志望が1年で55%、2年で53.2%で、教員への志望(1年は29.2%、2年は28.1%)をほぼ倍近く引き離しているのに対し、学部では両者の差はそれほど大きくない。ただし学部を学年別でみていくと、大きな特徴があるのに気づく。すなわち1年と2年は2つの志望とも大差はないが、3年の場合は体育指導員志望が24.1%なのに対して教員志望が47.6%と、ほぼ2倍に達しているのが興味深い。クラブ別ではどのクラブにおいても体育指導員と教員の数がほぼ同数で全体の80%以上を占めている(表11)。

表11 進路志望

	全体 1096名	クラブ所属 894名	無所属 202名	学部3年 166名
体育指導員	492 44.9%	387 43.3%	105 52.0%	40 24.1%
教員	429 39.1%	371 41.5%	58 28.7%	79 47.6%
医療関係	28 2.6%	20 2.2%	8 4.0%	5 3.0%
社会福祉	16 1.5%	14 1.6%	2 1.0%	0 0.0%
その他	131 12.0%	102 11.4%	29 14.4%	42 25.3%

注) その他・・・一般企業・公務員等

(4) 体育協会公認スポーツ指導者に対する意識(Q13~Q17)について

- ① 「社会体育指導者の知識・技能審査事業を知っていますか(Q13)」に対して、格技系17.8%、資格目的系20.0%を除いては全体的にみても、学部、保体、学年別でみても知っている割合(平均11.1%)は極めて少なかった。
- ② 「日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会を知っていますか(Q14)」に対して格技系の13.3%以外、どのグループも2~3割程度は知っていると答えていた。例外的に野外系で4割を示していたが、これは野外系(水泳部)でこの講習会制度についての細かな指導があり、全員が熟知していたためである。
- ③ 「共通科目の免除制度や公認スポーツ指導者になる方法を知っていますか(Q15・Q16)」に対して過半数が知らないと答えていた[Q15(59.3

%) Q16 (64.1%)]。

- ④ 以上(Q13～Q16)の設問は現在実施されている社会体育指導者養成講習会やその資格認定に関するものであるが、ほとんどの学生が知らなかったという結果であり、本アンケートではじめて知ったという声も聴いた。特に学部3年生は前期カリキュラム説明会で指導があったにもかかわらず、約66%の学生が知らなかったと答えていた。しかし「共通科目終了証明書を取得しようと思いますか(Q17)」の設問には、全体で約75%の学生が「思う」と答えており、これは資格取得に多くの希望があるにもかかわらず、実際にはその情報を十分に受けとめていないためと考えられよう。

まとめ

今回の調査により、本学学生は社会体育ということを漠然と知ってはいるものの、概念を正しく認識している者は少ないことがわかった。また実際には、学校体育、社会体育にかかわらず、体育指導に携わりたいと強く希望し、将来、社会体育指導者の資格を取りたいと考えている学生が多いこともわかった。更に(Q19)の社会体育について望むこと、疑問点等の記述回答には「社会体育そのものや、将来の仕事としての社会体育の情報を得たい(144人)」「現状の社会体育をもっと一般化させるべきである～施設の拡大、種目の増加など～(89人)」という意見の記述もみられた。一方、現実の状況をみても、社会体育の受講経験、指導経験、資格取得の数および、社会体育指導者に関する知識は非常に少なく、実際に学生が希望していることとのギャップは大きい。

これらのことから、本学学生は社会体育に対する希望、関心はあるものの、実際には、あまり関わっていないのが現状であるといえよう。その理由が、「希望するが方法がわからない、知りたいがどこに聞いたらいいのかわからない」ためか「気持ちはあるが行動に移すほど強いものではない」ためかまではわからないが、「やりたい、取りたい、知りたい」

という学生の要望があまりに実現されていないという感想を持った。今後は、それらの原因を明らかにすべく継続的な調査を進めて行く一方で、本学学生には、職業としての社会体育の意義と価値を十分に把握させながら、資格取得など社会体育関連の情報のきめ細かな提供と、その浸透化を図ることが重要ではないかと考える。また、学生自身の意識を高めるために、日頃の学生生活における地域社会との関わり(身近な地域社会、施設でのスポーツ、レクリエーション活動やボランティア活動などへの参加)を広く奨励し、学生自身が社会体育を身近な活動や問題として捉え、取り組んでいけるような環境作りも考えられてよいのではないかとと思われる。この観点から、大学と地域社会のあり方もさらに開かれたものとして推進されていくことが望ましいのではないかと考える。

本研究を終えて、いくつかの反省事項が残ったが、なかでも、アンケートの質問の仕方により、質問側の意図が明確に伝わりにくかったり、回答側の意識を正しく引き出せなかったりすることが見られた。質問紙法によりアンケート調査をする際の、質問の仕方の吟味の重要性を痛感した。これを踏まえて、今後の調査に臨みたい。

文献

- 1) 竹之下 休蔵・菅原 禮 「体育社会学」 現代保健体育学大系 3
- 2) (財)日本体育協会 「社会体育指導の知識・技能審査事業」 商業スポーツ施設における指導者/上級